

池田 良穂 (大阪府立大学 名誉教授・客員教授) の

新 クルーズ 学

70

最近、クルーズの分野では、旅客定員が1000名程度の小型の豪華船のイメージを二クルーズ客船が増えてい部では残したまま、クルーズというレジャーを一般大衆にまでターゲットを広げました。乗客一人当たりのコストを削減し、かつ船上で多様な嗜好をもつ人々の満足感を

半世紀以上前、民間航空機網がまだ発達していなかったころ、太平洋や大西洋には豪華客船と呼ばれる大型の高速定期客船が運航されていまし

きまとい「豪華船」というキャッチフレーズが浸透していました。1960年代にカリブ海で登場した現代クルーズは、この豪華船のイメージを一部では残したまま、クルーズというレジャーを一般大衆にまでターゲットを広げました。乗客一人当たりのコストを削減し、かつ船上で多様な嗜好をもつ人々の満足感を

急増する小型豪華客船



1987年に神戸に寄港した「シー・ゴッデスI」。新しいラグジュアリークルーズの分野を切り開いたパイオニア船だ

ンランドのバルチイラ造船数が建造され、ブティが、5万総トン級だと60船所でした。同社は大型のラグジュアリー船の開発・研究で有名でしたが、常に種々のタイプのクルーズ客船を提案して実現し、この小型クルーズ客船もその一つでした。

その最初が、1984年に建造された4300トンの「シー・ゴッデスI」姉妹です。旅客定員は116名。乗組員は95名と、ほぼマンツーマンの高質サービスが受けられ、プライベートヨットのようなクルーズが楽しめるのが売りでした。この姉妹を皮切りに、1300名が一般的です。

クルーズフェス'24

11月16日に大阪で開催

クルーズフェスティバル大阪2024(主催・クルーズプラネット)が11月17日、大阪市北区の梅田サウスホールで開か